

私が今回紹介する記事は、車の自動駐車・駐車支援の技術に関する記事です。車の運転をしたことがある人は、駐車が難しいと感じたことが1度はあると思います。今では、車に搭載されたカメラが、車体後方や、前方の壁との距離などを判断し、ぶつかりそうになると音で知らせる、などといった技術もありますが、それでも、駐車に苦労している人はいると思います。実際、記事によると、国内の自動車事故全体の3割強が車庫や、駐車場で発生しているそうです。その原因として、駐車操作は、ステアリング、シフト、ブレーキ、アクセル、後方確認など、やることが多く、人為的な過失が発生しやすいことがあげられます。

そのような背景より、世界では、人が運転しなくても、車が自動で駐車してくれる無人駐車技術や、車から降りて、スマホや車のキーを操作して駐車をを行うリモート駐車支援機能などといった技術の開発が進んでいます。

このような技術は、駐車の際のストレスの軽減や、事故などを減らすだけでなく、駐車場不足の解消などの効果もあると考えられています。

記事よむ（2枚目最初）

実は、もうすでに、リモート駐車支援機能が実装されている車が存在します。Tesla社のSUVやBMW社の5シリーズなどです。これらの車は、駐車をする際、運転手は車から降りて、専用のアプリを使い、記事の画像のように、車を操作し、駐車をを行うことができます。

このような機能は、とても便利ですが、セキュリティー面での課題などあり、世界中の会社が、このような機能が実装できるような環境づくりを行っています。

私はこの記事を読んで、駐車支援機能が発達すると、事故だけでなく、駐車場不足の問題なども解決することができることを知り、驚きました。このような技術が進歩して、自動運転や自動駐車が当たり前の世界になる日もそう遠くないのかなと思いました。